

# 第 61 回近代五種全日本選手権大会



令和3年11月12日から14日の間、栃木県宇都宮市及び下都賀郡において第61回近代五種全日本選手権大会が行われた。自衛隊体育学校からは山中（室塚）詩乃3等陸尉以下10名（男子6名・女子4名）の選手が出場し、男子個人では佐藤大宗3等海曹が優勝、大西渚生3等陸曹が第3位、女子個人では山中3尉が第2位の成績を取めた。

初日は男子個人の3競技（水泳・フェンシング・馬術）が行われ、佐藤3曹は水泳、フェンシングの終了時点で総合2位につけた。続く馬術競技では障害減点が重なり、総合順位を4位に落として最終競技を迎えた。2日後の大会最終日に行われたレーザーラン競技では、トップ選手から45秒後にスタート。渾身の走りで追い上げトップに踊り出ると、勢いそのままに後続選手を大きく突き放し念願のゴールテープを切った。

昨年初めて表彰台に立った大西3曹は水泳で5位と好発進したが、フェンシングと馬術でひとつずつ順位を落とし、総合7位でレーザーランに臨んだ。トップ選手から57秒後にスタートした大西3曹は、前を走る先輩の背中を懸命に追いかけ、力強い走りで2年連続の表彰台入りを果たした。

佐藤3曹は「コロナ禍で大会を開催してくださったこと、支援してくれた役員の方々、遠くから応援しに来てくれた方々に心から感謝をしています。」と感謝を述べた。また「昨年は2位で悔しい思いをした。その悔しさがこの一年の練習、海外遠征で自分を強くしたと思っている。先輩であり、今回フェンシングでペアだった岩元3曹と一緒に闘い、サポートして頂き、優勝できたことは自分一人の力ではないと思った。五輪2大会に出場した岩元3曹を超える選手になれるように、これからも日々精進し、日本の近代五種を引っ張っていける存在になれるよう頑張りたい。」と今後の抱負を語った。



大会2日目に行われた女子個人で山中3尉は水泳を9位、フェンシングを堂々の1位で通過し、馬術競技終了時点で総合1位と強さをみせた。最終競技のレーザーランでは安定した走りで激走するもひとつ順位を落とし、総合2位で幕を閉じた。



東京五輪を最後に引退した島津玲奈3等陸曹に続き、岩元勝平3等陸曹も今大会を現役最後とした。全日本選手権では4度の優勝、2016リオ大会・2020東京大会と五輪に2大会連続で出場し、近代五種界のトップを走り続けたベテラン。今大会でもフェンシング競技を1位で終え、トップでレーザーラン競技に挑んだ。最後まで好戦し、総合4位で締めくくった。

今大会で好成績を残した佐藤3曹や大西3曹などの次世代を担う後輩にバトンを託し、競技人生に終止符を打った。



## 総合成績（メダリスト）

	順位	階級	氏名	総合得点	出身
男子個人	優勝	3等海曹	佐藤大宗	1459点	青森県
	第3位	3等陸曹	大西渚生	1441点	宮崎県
女子個人	第2位	3等陸尉	山中詩乃	1384点	高知県

## 男子団体

優勝	自衛隊体育学校 A
3等陸曹	岩元勝平
3等海曹	佐藤大宗
3等陸曹	大西渚生
第3位	自衛隊体育学校 B
3等陸曹	藤巻啓太朗
3等海曹	菅沼宏太
陸士長	藤田竜大

